

長崎県公立高等学校PTA連合会

会報

第 89 号

令和6年2月10日
長崎県公立高等学校PTA連合会
長崎市竹の久保町12番9号
電話 095 (861) 3146
FAX 095 (861) 3147
印刷(株)クラフィット
電話 095 (838) 2181

令和五年度活動報告

県連会長 野口富士男 再任
(長崎工業高等学校育友会会長)

定期総会 (令和五年六月一日
出島メッセ長崎)

●開会行事
会長挨拶 野口富士男
祝辞

長崎県教育委員会教育長

中崎謙司 様

- ①地域創世の核としての県立学校の魅力化
 - ②遠隔教育センターの開設
 - ③働きがい改革
- 3つの視点から、本県の課題である「人づくり」を、PTAと想いを共有しながら一緒に考え、進めていきたいとお言葉を頂きました。

議事

- ・令和四年度事業報告・会計決算報告・監査報告
 - ・役員承認 長崎工業高等学校育友会会長 野口富士男氏が会長に再任。新役員名は、四面に記載。
 - ・令和五年度事業計画、予算の審議
 - ・長崎がんばらんば大会報告
- 以上の案件は、全会一致で原案通り承認されました。

表彰
・功労者・広報紙コンクール
教育懇談会(ファミリープログラム)テーマ

- ①PTA活動の活性化・魅力化
 - ②高P連や県教委への要望等
- 二四グループに分かれて、各テーマについてワークシヨップを行いました。
- 各グループとも活発な意見交

(定期総会ファミリープログラムで要望が多かったものを重点項目として要望・テーマとして懇談した。会報二面参照)

・団体総合保険の状況
(大きな事故はなかったが、ガラス破損等の対物件数、保護者のけが等への補償が報告された。)

・地区別研修会報告(会報四面参照)

理事会

第一回理事会

(令和五年六月一日 出島メッセ長崎)

総会提出議題について審議
(原案通り総会へ提出)

第二回理事会

(令和五年十月十六日 セントヒル長崎)

- ・上半期会計決算報告
- ・委員会報告
- ・高等学校等教育の充実に向けた教育懇談会要望テーマについて
- ・団体総合保険の状況
- ・研修会(進路講演会)
- ・「半径5mから始まる世界」講師 株式会社リクルート キャリアガイダンス 編集長 赤土 豪一氏
- ・生徒・保護者のアンケート結果を基に、子どもとの関わり方やコミュニケーションの重要性、学校の探究活動や進学情報のお話を頂きました。

第三回理事会

(令和六年一月十日 セントヒル長崎)

- ・委員会報告
- ・令和五年度事業報告(中間)
- ・高等学校等教育の充実に向けた教育懇談会報告

・県高P連会費について
(令和六年度会費値上げなし
令和七年度以降の会費値上げについて、総務委員会より説明・提案)

・行事予定・役員について
・九高P連熊本大会、全高P連茨城大会について

委員会報告

総務委員会

- ①高P連会費値上げについて
・生徒数の減少による会費収入減、節約等の自助努力も限界である。
- ・平成八年以来二十七年間値上げしていない。
- ・令和七年度以降基金会計からの補填が難しくなる。
- ・安定した県高P連活動の運営の継続と保障、新たな取組や支援等を行うためにも値上げする時期に来ている。
- (総務委員会提案)

協議内容

協賛内容

- ・全日制四〇〇円、定時制一〇〇円、特別支援一〇〇円
- ・理事会で説明し承認を取り、令和六年度総会に提案し承認が得られたら令和七年度から実施していく。ただし、特別支援学校については、各部(小中高、分校・分教室があるため今後整理をしていく必要がある。

- ・健全育成に係る様々な諸問題に関わっている。学校と家庭が継続して指導にあたる必要がある。
- ・ケーススタディとして具体的な状況を提示し、その際に最も適切な行動は何かを考えさせる取組は効果的であった。
- ・一人一台端末の利用においてもマナー教育や安全教育は必須である。

・健全育成に係る様々な諸問題に関わっている。学校と家庭が継続して指導にあたる必要がある。- ・ケーススタディとして具体的な状況を提示し、その際に最も適切な行動は何かを考えさせる取組は効果的であった。
- ・一人一台端末の利用においてもマナー教育や安全教育は必須である。

健全育成委員会

協議内容

- ①親子のコミュニケーションに関する取組について
・全体的に少ない(六九団体中、二二団体で実施)
- ・コロナ明けでまだ学校行事が少ない状況であるが、復活する行事もある中で、保護者と生徒の触れ合う機会は増加している。
- ・スマートフォンの所持により、顔を合わせたり、直接会話する機会が失われているのではないか。

協議内容

協議内容

- ②成人年齢引き下げに伴う諸問題への取組について
・学校で実施するケースが多く、PTAとしての関りが少ない。
- ・保護者への啓発は入学式や地区PTA、各学校の総会等で一斉に行われている場合が多い。
- ・銀行員や市役所職員など専門家を招いての講演が増加している。

協議内容

協議内容

- ③薬物乱用防止対策の取組について
・②と同様、学校で実施するケースが多い。
- ・総会等でチラシ等を配布し、会員間での意思確認を行っている。
- ④SNS等ネット対策への取組について

- ・健全育成に係る様々な諸問題に関わっている。学校と家庭が継続して指導にあたる必要がある。
- ・ケーススタディとして具体的な状況を提示し、その際に最も適切な行動は何かを考えさせる取組は効果的であった。
- ・一人一台端末の利用においてもマナー教育や安全教育は必須である。

・健全育成に係る様々な諸問題に関わっている。学校と家庭が継続して指導にあたる必要がある。- ・ケーススタディとして具体的な状況を提示し、その際に最も適切な行動は何かを考えさせる取組は効果的であった。
- ・一人一台端末の利用においてもマナー教育や安全教育は必須である。

協議内容

協議内容

- ①九高P連報告
進路実践事例集について
・九州各県の協力により二十数件の事例をのせることができた。
- ・今後は利用しやすいように、県別、就職・進学別などの分類があるなど利用しやすくなる。
- ・福岡県P連のみがHPで閲覧できる。長崎もまずはリンクを張るなど、できることからやっていいのではないかと。

協議内容

協議内容

- ②次年度へ向けた提案
・事例集の活用
・各校に活用を促す。また県連のHPに載せるか、リンクを張るなど利用しやすくなる。
- ・県内の事例の収集・まとめ
・フォームは簡潔なものがある。
- ・県が持っている県内企業の就職情報をまとめたサイトを作成してほしい。先輩などの声があるのとさらにわかりやすくなる。

協議内容

協議内容

- ③調査広報委員会
・調査は九高P連の審査基準「目的・使命」一〇点、「企画・内容」二〇点、「編集・レイアウト」一〇点、「見出し」一〇点の合計五〇点満点で審査する。
- ・奨励賞1点は外部委員に選出していた。
- ④今年度取り組んだ主な内容
・まとめ

協議内容

協議内容

- ・これまでの2回の委員会今年度の広報紙コンクールに向けて準備してきた。
- ・自校の広報紙作成を含め、県全体の活動の充実につながればありがたい。
- ③広報誌コンクールについて、各委員からの感想
- ・学校によっては作成の時期がコンクールにうまく合わないこともあるのではないかと。

協議内容

協議内容

- ・デジタルで配信しても見ていただけない保護者がいるのではないかと。紙で配布することで見える率が高まると思う。
- ④まとめ
・広報誌に関する研修会を実施している県がある。本県でも地区ごと、もしくは学校ごとに実施できないか。デジタル配信も考えられる。
- ・点数の付け方が難しいため、項目ごとに点数を設定するなど審査形式を検討する。
- ・高P連会報の在り方(広報誌のサイズ、配布方法など)については次年度、継続して審議していただきたい。

今年度を振り返って



長崎県公立高等学校PTA連合会
会長 野口 富士男
(長崎工業高等学校育友会会長)

皆さま、日頃より各学校でのPTA活動へのご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

本年度は長崎県の高校教育において、さまざまな難問や課題が出てきました。受検制度が来年から変わり、また教職員のなり手不足の問題を解決すべく「教職員の魅力化作戦会議」も今年度から三か年計画でスタートしました。私も連合会の代表として各会議に参加し、意見を伝えたいと考えています。

今年度はコロナウイルスが五類感染症に変わり、様々な活動がほぼ通常通り開催されるようになりました。長崎県内でも、選手の応援活動や学校行事との連携を通じて、スポーツへの関心が高まりました。また、地域スポーツクラブの躍進など明るい話題も多かったかと思えます。

また、学校現場でもさまざまな取り組みが行われており、教育環境の充実に向けて新たな学習施設や設備の整備が進められ、より質の高い教育が提供されるよう努められており、また、ICT(情報通信技術)の活用や新しい教育手法の導入にも力を入れ、生徒たちが将来に向けて必要な能力を身につけられるよう徐々に変化を促しているように感じます。

連合会としては年度当初の総会の際に「ながさきファミリープログラム」を実施して、学校教育における課題やニーズを把握し、また各学校の様々な課題を共有する場を作りました。また、その際に出たご意見を参考にしながら要望をまとめ、十一月に開催した「教育長との教育懇談会」で長崎県の公立高校の教育環境の充実に向けて積極的に提言を行いました。また、各地区で毎年行われている研修会等の開催支援なども実施しました。私も今年度は対馬地区の研究大会に参加させていただきました。私たちが素晴らしい内容でした。これからも関係機関との連携を通じて改善に取り組んで参りたいと思います。

日本全体が大きな転換期を迎えるなか、新たな社会の形成に向け私たちPTA連合会も地域の一員として、積極的な役割を果たせるよう皆様のご協力をいただきながら努めてまいります。今後、地域の高校教育の発展や保護者の皆さまの支援に取り組む、より良い教育環境の実現を目指してまいります。

最後になりますが、ご家庭と学校の連携がより一層深まり、充実した学習環境を提供できるよう、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。素晴らしい子どもたちの未来のために。

最後になりましたが皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



長崎工業祭での1コマ

令和5年度 広報紙コンクール審査結果

最優秀賞 長崎県教育委員会賞

西陵高等学校PTA
『上野が丘陵（うえのがおか）』



優秀賞

長崎県公立高等学校PTA連合会会長賞

長崎工業高等学校定時制育友会
『長工定 育友会だより』

優秀賞

佐世保東翔高等学校PTA 『うずしお』
口加高等学校PTA 『ともがき』
対馬高等学校PTA 『白帆』

奨励賞

長崎東高等学校PTA 『東の樹』
虹の原特別支援学校PTA 『虹』

どの学校の新聞も親の愛がにじみ出ており、甲乙つけがたかった。PTA新聞の目的は、学校ごとに異なる。また、役員の入れ替わりのため継続できるものでもない中、これだけの新聞ができることに感心した。デジタル化が進む社会であるが、紙の新聞も大切である。引き続きPTA新聞を継続して、学校運営に生かしてほしい。

審査委員

を配置している。

○各特別支援学校で医療的ケアを必要とする児童生徒数を把握したうえで、平成二十四年度に三名、平成二十六年年度に一名、令和元年度に三名、令和二年度に五名、さらに令和四年度に一名増員し、令和五年度現在、七校に十二名を配置している。

○特別支援学校においては、各学校の実態を踏まえ、予算の範囲内で特別支援学校に配置している。特別支援学校の児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、介助業務職員等の配置にかかる予算の確保に努めていく。

○令和五年度は、介助業務職員（会計年度任用職員）三十二名及び介助業務補助職員（会計年度任用職員、障害者雇用）十名をそれぞれ特別支援学校に配置している。スクールカウンセラー（SC）について

○令和五年度の県立学校の配置校は、高校三十五校、特支四校である。

○SC及びSSWについては、限られた財源の中ではあるが、配置方法を工夫しながら配置校の拡充に取り組んでいるところであり、また、未配置校に対しては、配置とは別に、学校からの要請に応じ、SC・SSWの派遣制度を設けている。

引き続き、より効果的な配置となるよう工夫を重ねるとともに、国に対し必要な財源の確保について要望するなど、配置充実に努めていく。

（要望や意見）
生徒や保護者が相談したいときいつでも相談できる体制の工夫をお願いしたい。引き続き、国へSC・SSWの配置充実に関心が高まっている。国の方針もあるが、長崎県として考えを示していきたい。

（要望や意見）
保護者のICT機器の更新についての関心は高い。国の方針もあるが、長崎県として考えを示していきたい。

（要望や意見）
保護者のICT機器の更新についての関心は高い。国の方針もあるが、長崎県として考えを示していきたい。

（要望や意見）
保護者のICT機器の更新についての関心は高い。国の方針もあるが、長崎県として考えを示していきたい。

（要望や意見）
保護者のICT機器の更新についての関心は高い。国の方針もあるが、長崎県として考えを示していきたい。

を整理し、市町の児童福祉主管課等へ相談・連携しながら必要な支援を実施。関係機関への相談等が不要と判断される場合においても、継続的な見守りを行う。○今後も、令和五年四月施行のこども基本法の基本理念である「適切に養育され、健康やかな成長・発達、自立が図られること」の実現に向け、取組を進めていく。

2. 今日的課題について（教育懇談会テーマ）

各地域がそれぞれの魅力や資源を活用し、学校と連携した課題解決等の探究活動も行われ、少なからず成果を上げている一方で、生徒数の減少が続き定員を満たさない学校も数多くあり、特に離島・半島地域を抱えている本県ではその動きが顕著です。県教育委員会と地域・学校・保護者が連携しながら、更なる学校への支援が求められていることから左記をテーマとして懇談を行った。

1. 学校への支援

(1) 通学手段の確保、生徒減少の中での今後の取組

・通学時間帯の路線バスやスクールバスの増便、通学費補助緩和について
・生徒減への対応
・各種大会、全国総文祭やインターハイ等上位大会出場への支援

(3) 特色ある取組を行っている学校への支援
（離島留学制度が一定の成果あげている一方で、寮の老朽化や運営、保護者の負担等、離島留学を取り巻く環境、それを支える地域の方々の負担も増してきている。制度の充実に向けての支援策について）

2. 県教育委員会の取組の紹介

・高校入試制度改革
・教職の魅力化作戦会議の進捗状況
・未来人材課より説明

（まとめ）

高P連役員と県教育委員会や関係者との教育懇談会では、要望とともに、テーマを基にした意見交換を行いました。限られた時間ではありましたが、直接話ができただけ有意義な会でした。今後も、保護者の皆様と学校、県教育委員会と連携しながら、子どもたちの学習・生活環境、教育設備の充実を目指して取組んで参りますので協力をお願いします。



令和五年度

高等学校等教育の充実に向けた 教育懇談会報告（抜粋）

日時 令和五年十月三十日（月）午後三時三十分～午後五時三十分
場所 セントヒル長崎

テーマ 「教育県長崎」づくりを目指して
「たくましく生きる「郷土長崎県の子ども」を育てるために」

1. 教育活動への支援

《要望と進捗状況の確認》

(1) アクセスポイントの設置について

●現状と回答

普通教室以外へのアクセスポイントの増設計画、進捗状況

○普通教室及び特別教室の一部については、国のGIGAスクール構想による補助金を活用し、令和二年度に整備を行った。体育館については、補助金が活用できず、令和三年度以降、各学校へ配分している運営費等の中で、各学校が実情に合わせて設置している（十校）。

体育館へのアクセスポイントの設置計画

○引き続き、各学校に配分している運営費の中で優先順位を設けて整備していただくようお願いしている。なお、学校を災害時の避難所として使用するにあたり、学校の教育用無線LANを地域住民の利用に供することは、セキュリティ上の問題があるため解放することは困難であり、

避難所として指定し運営する市町や防災部局が設置すべきものと考えている。

（要望や意見）
避難施設の設置や運営は市町であることは認識している。設置について、防災担当機関と踏み込んだ協議や連携をお願いしたい。

(2) 県費による特別教室・体育館へのエアコン設置について

●現状と回答

特別教室（特別支援学校を含む）へのエアコン設置計画について

○特別教室等への設置について、高等学校においては、校務運営上必要と考えられる保健室やカウンセラー室、図書室、進路指導室、パソコン室などに整備を行ってきた。また、特別支援学校においては、障害種を踏まえて整備を行っているとあり、学校からの要求に基づき、予算の範囲内で老朽化が深刻なものから整備（更新）している。

体育館へのエアコン設置について

○体育館については、断熱性・気密性が低く、効果的な空調設置を行うための大規模な改修が必要なこと、また、多額の経費を要することとなり、財政的にも困難であることから設置していない。

PTAから県へ移管したエアコンの維持管理の現状

○令和五年度から、電気代やリース料などのランニングコストは全て県が負担しており、PTA所有から県の所有となった設備の改修についても、各学校から老朽化の状況等にに応じた改修計画を提出してもらい、予算の範囲内で改修を実施している。

特別教室（特別支援学校を含む）へのエアコン設置計画について

○危険校舎の改修等や、これまでのPTA負担分の空調経費の公費負担を継続的に行う必要がある中、老朽化した空調設備の改修を優先的に行うこととしている。

（要望や意見）

体育館へのエアコン設置が工事や財政から厳しいのであるならば、スポットクーラーや送風機の設置等工夫しながら対応を考えていただきたい。

(3) 一人一台タブレット端末の運用について

●現状と回答

昨年度の機器の破損や不具合等での修理件数や費やした費用、保護者へ負担を求めた事例と件数

○令和四年度の修理件数の総計は六六一件で、その修繕費用は、約二〇七六三円円となっている。また、そのうち保護者へ

(4) 特別な支援を要する生徒・家庭への支援

●現状と回答

特別支援学校への支援
○令和六年度までに虹の原特別支援学校及び、鶴南特別支援学校時津分校の校舎を増築し、二十教室の不足解消を予定している。残りの四十一教室についても、今後の児童生徒数の推移等を見極めながら、既存施設や近隣の学校等の活用を視野に入れ、教室不足解消に向けて取り組んでいきたい。

○医療的ケアの必要な子どもの安全・安心な学校生活を確保するため、平成十六年度から必要な学校に医療的ケア看護職員

祝 PTA功労者文部科学大臣表彰

三年間県連会長、長崎東中学・高等学校PTA会長として県連合会、単Pをけん引された。特に、令和四年六月には、九高P連会長として、コロナ禍の中にあっても九高P連長崎大会を創意工夫し、開催した。

平成三十〇令和二
県連会長・
長崎東PTA会長



小柳 義則

県連会長、九高P連進路対策委員長、全高P連進路対策委員として、県内はもとより、外部役員を多数務めた。将来の連合会運営を目指した方向性を示すなど精力的に活動された。

平成二十九 県連合会長
平成二十八〇二十九
長崎西PTA会長



石本 仁太郎

祝 優良PTA文部科学大臣表彰

家庭と学校の連携を図る

対馬高等学校PTA会長 堀江 三喜也

対馬高等学校は、今年度創立百十八年目を迎えます。全校生徒は三百七十八名で、普通科・商業科・国際文化交流科の三つの学科があります。国際文化交流科は全国の公立高校で唯一、韓国語や韓国文化を専門的に学ぶことができます。

本校PTAは、健全育成・進路対策・調査広報・母親の四委員会から構成されています。体育大会やオープンスクール前に学校敷地内の除草作業を行ったり、地域の事業所から講師を招いて生徒に講話をもらったり「進路セミナー」を企画したりしています。また、文化祭では食物バザーや願い事を書いてもらう絵馬の作成、持久走大会では炊き出しを行うなど学校行事にも積極的に関わっています。

近年は健全育成委員会を中心に、緊急事態や登下校時の連絡手段としてスマートフォンでの校内持ち込みについて、生徒や保護者および学校と意見を交わしながら検討を重ねて導入に至りました。

これからは家庭と学校が連携しながら地域に根ざしたPTA活動を行っていきます。



祝 九州地区高等学校PTA連合会 佐賀大会

団体表彰

今年度の本校PTAは四委員会活動を行ってきた中で、三学年委員会と本部役員は、東翔祭（文化祭）での食物バザー等の行事を学校と協力して行いました。

そこで、とても嬉しく感謝したことがありました。東翔祭では例年生徒が催事を行う教室棟とは別棟の調理室で、カレー等の調理をし、その場でバザー販売として提供していたのですが、今年度は教室棟で生徒達と横並びで行いました。生徒達は調理室でお手伝いしてくれただけでなく楽しそうに大声で呼び込みをし続けてくれました。また、隣の教室をイートインスペースにしたところ、そこに置いてあった大きなゴミ袋に食べ終わった使い捨てトレイがすてきれいに美しく重ねて入れてありました。

誰か一人でも重ねなかったなら、きつそうではなかったでしょう。本校は、育てる生徒像として「美しい大人へ」社会人基礎力を身につけ、自ら考え行動できる人」を目標として掲げています。その目標に保護者と地域が、到達できるように力を合わせ協力していくことがPTA活動の目的であるというところを体感できる出来事でした。



マラソン大会での弁当等提供



東翔祭での食物バザー

更に「美しい大人へ」を願って

佐世保東翔高等学校PTA会長 海田 尚広

祝 全国高等学校PTA連合会 宮城大会

団体表彰

子どもたちと一緒に楽しむ

「キラッキラな大人」を目指して

島原翔南高等学校PTA会長 濱松 啓介

本校は、平成十六年に島原南高校と有馬商業高校が統合し、島原半島唯一の総合学科の高校として発足しました。現在の生徒数は百人と少人数ではありますが、生徒一人ひとりがいくつもの役割を果たしながら充実した学校生活を送っています。また、ボランティア活動や「ふるさと」をテーマにした課題研究にも力を入れており、地域とのつながりを大事にしています。

このように一生懸命頑張る子どもたちが、より一層充実した学校生活を送れるように、私たち島原翔南高等学校PTAは積極的に活動しています。今年度は親睦レクリエーション大会や研修旅行、マラソン大会における「豚汁の炊き出し」を四年ぶりに実施することができました。その中で、保護者の皆さんが子どもたちと笑い合っている姿が活動する姿を見て、「一緒に楽しむことが何よりの応援になるんだなあ」と改めて思いました。本校PTAのスローガンである「キラッキラな大人になる！」を胸に、これからも子どもたちと一緒に楽しみながら、育友会活動を充実させていきたいと思っています。



「PTA」と「親志の会」で子供達を熱く支える

諫早東高等学校PTA会長 電永 正広

長崎県の地図は走っている子犬のように見えませんか。その子犬の喉仏の位置にある高校が県立諫早東高等学校です。諫早市森山町と雲仙市愛野町が接する位置に建つ、創立四十周年を越えた学校です。現在の生徒数は一三〇人程で、こどもたちと共々、生徒達は陸上部のインターハイ出場、同じく陸上部の九州新人大会出場、放送部の番組部門やアナウンス部門での九州大会入賞など、小粒でも光る活躍に頼もしさを感じます。さて、近年はPTA会員数の減少に加えコロナ禍で十分な活動ができず、悶々としていたが、従前の先人の方の活動が認められ、今年度は嬉しくも全P連表彰を頂くことができました。本校ではこれまでPTAとそのOBでつくる協力組織「親志の会」が連携して子供達を支えてきました。特に行事への会員の参加に際し、役員同士が密に連携しつつ学校と相談できたこと、会員が活きた活動と活動する姿を子供達に見せられたことが良かったと思います。これからも楽しみながら子供達を熱く支えていこうと思います。



全P連宮城大会 看板



全P連宮城大会 全体会場

「子どもたちのための育友会活動」

島原工業高等学校PTA会長 竹村 寿記

島原工業高等学校は、背後に眉山と平成新山、眼下に島原城と有明海を望む丸尾台の地に位置しています。

今年度は創立六十周年の記念行事やソフトボール部のインターハイ優勝をはじめとした部活動・地域貢献活動での活躍など、学校が盛り上がる活動が多々ありました。

育友会組織は育友会と母の会があります。育友会は会報の発行や夏祭りの巡視活動などの取り組みを行い、母の会は文化祭での出店やマラソン大会でのスポーツドリンク配布などの取組を行っています。保護者同士の連携も非常に良く、会議等の集まりでは、先生方を交えて会話が弾み、時には時間を忘れるほど盛り上がることもあります。

これからも、次代を担っていく子どもたちがさらに充実した学校生活を送れるよう、支援を行っていききたいと思います。



研修旅行



文化祭



マラソン大会

個人表彰

単P会長三年、副会長一年、五島地区理事三年と三年間にわたり、単P活動はもとより、地区活動の活性化に貢献された。



中五島高等学校PTA会長 竹内 睦月

単P会長三年、島原地区理事二年、副会長一年、県高P連理事一年と、単P活動のみならず、島原地区、県高P連活動の活性化に貢献された。



国見高等学校PTA会長 石原 秀明

個人表彰

単P会長として通算五年間、PTA活動をけん引された。卓越したリーダーシップを発揮し、役員の意見を取りまとめるなど多大な貢献をされた。



長崎北陽台高等学校PTA会長 坂本 浩二



佐世保南高等学校PTA会長 古賀 久貴

単P会長三年、副会長二年と、長きにわたり学校行事や会議等積極的に参加しながら、学校活性化とPTA活動に貢献された。

地区別研修会報告

場所 時日時 大会テーマ 協議内容

●長崎地区 参加者33名

所 長崎西高校多目的室 時11月11日(土) 13時～16時

アアフターコロナにおけるPTA活動の在り方

・総会・協議「ワールドカフェ・1グループ4名を基本とする8グループで協議を行い、途中メンバーを変えながら80分自由に意見を出し合った。

・PTA活動において行ってみたいこと、実際に行ってみて面白かったことなど自由に語り合うことで、今後の活動のヒントを得ることができた。

・コミュニケーションをとる手法の学びの機会にもなった。

今後に向けて

・今回の規模であれば、事務局校の負担も軽く、業務削減につながる。

●諫早・大村・東彼地区 参加者37名

所 ミニオン図書館 時11月15日(水) 14時30分～16時30分

アアフターコロナにおけるPTA活動の在り方について

・講演「睡眠の重要性」 杉野 伸治氏

・協議 KARADA CONDITIONING「THANKS」代表

令和6年度九高P連熊本大会発表校について

今後の地区研修会の在り方について

その他(令和6年度幹事校、正副会長会、教育懇談会報告)

今後に向けて

・コロナ禍の前のような研修会の開催は負担が大きい。

・参加者を限定しての実施など、令和6年度の担当校等で協議のうえ実施する。

●島原地区 参加者137名

所 ホテル南風楼 時11月25日(土) 10時～12時55分

ア成長期における子ども教育のArt & Science

・講演「成長期における子ども教育のArt & Science」

・パネルディスカッション

3校の保護者代表がパネリストとして、「スマホの利用」、「思春期の子どもとの親子のコミュニケーション」、「成長期の子どもの食育」、「子どもの運動習慣」の4つの話題について意見を発表し、杉野氏の指導

助言、会場からの質問にも対応した。

今後に向けて

・今回のような参加者に感謝してもらえる研修会を今後も企画したい。

●佐世保地区 参加者48名

所 佐世保市労働福祉センター 時11月11日(土) 13時～15時

ア「取り巻く環境に応じたPTA活動の在り方」アアフターコロナの取り組みについて

・実践発表 佐世保西高等学校教育友会

・研究協議①

「アフターコロナの取り組みについて」(グループ協

7人×7グループに分かれて、PTAの行事運営にかかる活動の現

状と課題について意見交換を行った。

・研究協議②(全体協議)

グループ協議の報告を行い、会全体として情報共有を図った。

今後に向けて

・各グループで活発な意見交換が行われ、アンケートにおいても今回の形式を概ね支持する意見が多かった。

・地区研修会は、PTA役員及び教職員が他校との交流によって、各校の行事運営に関する情報が得られる貴重な機会であることから、多数のPTA役員や教職員の参加を促す取り組みが課題である。

●平戸・松浦・北松地区 参加者53名

所 鹿町工業高校視聴覚室 時10月21日(土) 10時～13時

ア「心豊かでたくましい青少年の育成を目指して」

・講演「愛着」(愛着) 話そう(対話) 育もう(体験)

「親の最後の贈り物」 浦川 未子 氏(元教育委員)

・研究協議「我が家の絆と教育方針」(二班6名のグループディスカッション)

今後に向けて

・会場は学校、参加者もPTA役員ということでアットホームな会になった。

・今後も担当校の運営方法で実施されるので特色や変化が出て良いと思える。

・今回は参加者を7名以下に制限していたので、もつと大勢の保護者が集う場で行う方が効果があるのではないかと。

●五島地区 参加者43名

所 五島高校メモリアルホール

時11月23日(木) 9時30分～12時20分

ア学び合い、繋がりが合い、支え合うPTA活動を目指して

・講演「あなたの子どもは大丈夫?」18歳は大人です」

・実践発表 五島高校全日制 五島高校定時制

今後に向けて

・会員がさらに主体的に参加できるプログラムを取り入れながら、今以上に参加して良かった、多くの方と繋がった、あの方

も同じ悩みを抱えていたんだ、子どもと向き合うってやはり大事なことだと思える研修会を目指す。

・下五島、上五島とも生徒減少を目の当たりにするとともに、働き方改革や経費面での課題もあり、今後は開催規模の縮小や、下五島、上五島の分開催も十分考えられる。

●吉岐地区 参加者47名

所 勝本町ふれあいセンター 時11月18日(土) 14時30分～15時20分

ア子どもに伝えたいSNSのリスクと、考える力、を育むために

「闇バイトの実態から学ぶ親と子供の関わり方」

・講演「子どもに伝えたいSNSのリスクと、闇あける力、を育むために」

「闇バイトの実態から学ぶ親と子供の関わり方」

長崎県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課

調査官 佐藤 修一氏

今後に向けて

・PTA役員と教職員で運営委員会を開き、吉岐地区として今後の研修会の在り方を話し合う場を設けた。

・参加者を増やす内容や島内2校の特徴を踏まえ、両校のPTAが交流できるような場にしていくという意見が挙がった。

●対馬地区(小中高合同PTA研修会) 参加者209名

所 対馬市公会堂 時11月12日(日) 13時～17時15分

アつながろう、ひろげよう、協力の輪」家庭・学校・地域が協力し、子どもたちの教育環境充実に図ろう」

・実践発表 東小学校PTA、豊島中学校PTA

・交流会 対馬3校の紹介

・講演「AKKERU」魂の歌が生まれるまで」

「親子でできる言葉力アップ」

松田 範子氏 松田 健(TAKERU)氏

今後に向けて

・幼小中高が一緒になってPTA研修を行う県内唯一の研修体系として今年度で5回目の開催となる。PTA活動の取組発表、生徒やPTA会長による高校紹介は、今後の母校PTA活動の進展に役立つ有意義な研修大会である。

・児童生徒数の減少に伴い会員数が減少している。今後の会員の意識高揚、組織運営、研修活動のあり方等が解決課題である。

ウェルビーイングとPTA

長崎県教育庁生涯学習課

会員の皆様方におかれましては、生徒の健やかな成長のために、日頃から各PTAでの活動において、ご尽力いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。今年度も七地区八会場において地区別研修会が開催されました。各地区で研修内容を工夫し、入念な準備のもとに実施することで、会員の皆様にとって充実した研修の場となりました。

さて、今後のPTA活動を考える上で一つの指針となる考え方を紹介します。それは「ウェルビーイング」という考え方です。

昨年六月十六日、国において「教育振興基本計画」が閣議決定されました。同計画の大きなコンセプトの一つが「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」です。ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含む概念であり、また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念です。同計画において、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められています。

ところで、地区別研修会の感想に次のようなものがありました。

- ①家庭でも日頃の会話を大切に、PTAで学んだことを親が子どもに伝えていかなければいけないと感じました。
 - ②自分の子どもだけではなく、周りの子どもたちも見守っていきたいと思います。
 - ③子どもの成長のために、家庭や学校でできることを協力して、連絡を取り合いながらやっていこうと思いました。
 - ④保護者だけでなく、地域とのつながりが必要だと感じました。学校、保護者、地域で子どもたちの成長を見守っていきたくらいと思います。
- これらの感想は次のような視点をもつものといえます。①PTAでの学びの家庭への還元 ②周りの生徒への意識の広がり ③家庭と学校との連携 ④地域総がかりの子育て
- PTAは、会員同士が学び、つながり、分かれ合う社会教育関係団体です。PTA活動を「学びの還元」↓「周りへの意識」↓「家庭・学校・地域による地域総がかりの子育て」のように展開し、ウェルビーイングの実現を図っていくことがこれからのPTAに求められているのではないのでしょうか。
- PTA活動が生徒の心豊かで健康な成長を目指すものであることは勿論ですが、同時に保護者と教職員の生きがいややりがいをも実現することが大切です。そしてそのことが、地域総がかりの子育てに幸福や生きがいを感じられる地域社会の実現につながる。そのようなPTA活動が展開されることを期待します。

事務局だより

今年度は、新型コロナウイルス感染症第五類移行により、定期総会委員会三回、理事会三回を計画通り開催できました。アフターコロナから県高P連も新たな活動スタイルが求められてきています。県高P連は、単位PTA、学校、地域、県教委への架け橋・プラットフォームとして運営・協力を進めて参りますので、今後ともご支援、ご協力をお願いいたします。

令和6年度 高P連関係の主な行事

●県高P連定期総会

五月三十日(木)

ホテルセントヒル長崎

●九高P連大会 熊本大会

六月二十日(木)・二十一日(金)

熊本市

●全高P連大会 茨城大会

八月二十一日(木)・二十二日(金)

水戸市 他

県高P連ホームページ

<http://www.nagasaki-koupren.org/>